



# NEWS

Fukuoka Foreign Trade Association

福岡貿易会 会員広報誌

発行・編集 / 社団法人 福岡貿易会  
〒812-8505福岡市博多区博多駅前2-9-28  
福岡商工会議所ビル7階  
TEL.092-452-0707 FAX.092-452-0700  
E-mail: info@fukuoka-fta.or.jp

vol.7

おかげさまで

社団法人 福岡貿易会

50 周年

12/10(水) 記念講演会・記念式典・祝賀会

寺島実郎氏

来る!!

## CONTENTS

設立50周年記念 南米経済視察団派遣事業報告 .....	1~2P
南米視察団に参加して .....	3P
南米「試食」団に参加して .....	4P
セミナー報告 .....	5~6P
会員企業紹介 .....	裏表紙
編集後記 .....	裏表紙

## 設立50周年記念 南米経済視察団派遣事業報告

当会では、海外市場開拓事業の一環として、毎年会員が関心の高い国や地域に経済視察団を派遣している。本年度は、当会設立50周年の記念事業の一環として、また、世界的にBRICsの一角として台頭著しい「ブラジル」を中心にビジネス事情等を視察調査するために経済視察団を派遣した。8月24日から9月3日までの11日間の日程で、並田会長（西研グラフィックス(株)代表取締役社長）を団長とする21名により、ブラジル、アルゼンチンを訪問し、経済動向・投資環境の調査や企業視察等を行った。

### ブラジルの概況 ※2007年

●名目GDP総額	1兆2,955億ドル
●一人当たりGDP額	6,843.6ドル
●実質GDP成長率	5.4%
●インフレ率	4.46%
●人口	1億8,400万人
●面積	855万平方キロ（日本の約23倍）
●貿易収支	400億2,800万ドル
●輸出額	1,606億4,900万ドル
●対外債務残高	1,932億1,900万ドル
●外貨準備高	1,803億3,400万ドル
●直接投資受入額	345億8,500万ドル（国際収支ベース）

#### ●ブラジルの魅力

- ①専門職等で日系人の存在、②ビジネス習慣は欧米流、③低い自然災害リスク（地震、台風等）、④清治は安定した民主主義、⑤皆無に近い反日感情リスク、⑥宗教・民族紛争はほぼ皆無、など

### アルゼンチンの概況

●名目GDP総額	2,541億ドル
●一人当たりGDP額	6,460ドル
●実質GDP成長率	8.4%
●インフレ率	14.1%
●人口	3,950万人（在留邦人11,692名、日系人約23,000名、良好な対日感情）
●面積	278万平方キロメートル（日本の約7.5倍）
●貿易収支	111億ドル
●輸出額	559億ドル（対日輸出額7.4億ドル）
●輸入額	448億ドル（対日輸入額12億ドル）
●対外債務額	1,232億ドル
●外貨準備額	438億ドル
●民族	欧州系（イタリア、スペイン）97%、インデイヘナ系3%（町中は全て白人、スペイン人が現地人を殺戮抹殺）
●主要貿易相手国	輸出・ブラジル、中国、チリ、米国　　輸入・ブラジル、米国、中国、ドイツ
●直接投資額	118億ドル

#### ●経済社会概要

1982年英国とのフォークランド紛争での敗北後軍政から民政へ移行。1990年代兌換制の下、自由解放経済政策を促進し、高い成長率を達成。1999年ブラジル金融危機の影響もあり景気減速、2001年対外債務の支払い停止。未曾有の経済社会危機後2003年キルチネル政権誕生。強いリーダーシップの下、経済及び社会的安定の回復を達成。ペソ安や一次産品市況の好調による輸出の増加・年金の引き上げにより、経済回復高成長を維持。2008年フェルナンデス・デ・キルチナル大統領となり、インフレの高進、エネルギー価格の高騰を抑えるための財政支出の増大、輸出課徴金を巡る農牧団体との対立等により、経済見通しは悪化している。

#### ●最近の日本企業の対アルゼンチン投資事例

ホンダ4輪車工場、ヤマハ2輪車組み立て、NECソフトウェア、片岡物産ワイン、古河電工光ケーブル等

#### ●アルゼンチンの特徴

“資源大国（大豆などの穀物、農産物等世界1位、2位の農業畜産大国、飢えないという不幸）”“高い購買力教育水準、生活の質、誇り高い民族”

## 主な活動概要

### 【8月25日(月)サンパウロ】

#### ①エンブラエル社訪問

- ・エンブラエル社は、1969年ブラジルの国営企業として設立。1994年民営化し、現在、エアバス、ボーイングについて世界第3位の航空機製造会社。ブラジル最大の輸出企業。
- ・同社が手がけるのは100人乗り程度までのリージョナル(地域)旅客機。
- ・「ERJ145(50席)」は、1000機以上を売るヒットとなる。
- ・日本航空は、「ERJ170(76席)」を2010年までに10機導入予定。(1号機完成引渡済み)09年2月に名古屋と福岡、松山を結ぶ路線に投入。
- ・副社長は日系のサトシ・ヨコタ氏。日系人は460人以上在籍。



①エンブラエル社



①エンブラエル社

### 【8月26日(火) サンパウロ (ピラシカーバ)】

#### ②COSAN 社訪問 (コスピタント工場)

- ・ブラジル国内に 18 工場とサントス港に専用ターミナルを持つ世界一の砂糖・エタノール製造会社。従業員 43,000 人。
- ・工場はサトウキビ畑の中にあり、全作付面積は 60.5 万ヘクタール、年間 4,400 万トンのサトウキビを絞り 315 万トンの砂糖、157 万キロリットルのエタノールを生産。
- ・コスピタント工場は、1936 年に建設された工場、元来は砂糖生産工場であったが、エタノール需要増大のため、砂糖生成過程で出る廃糖蜜を発酵させてエタノールを生産するため、発酵・蒸留・貯蔵設備等を新設している。
- ・副産物のサトウキビ絞りかす(バガス)は、発電用ボイラー燃料となり、工場ですらった電力は販売している。
- ・砂糖の製造過程で出るフィルターケーキは、バガスと混ぜて発酵させ有機肥料として畑に戻し、アルコール精製過程で出る廃液(ピナス)は、加水混合して工場から鉄管を連結して加压送水し、スプリンクラーで畑に戻している。
- ・サトウキビの刈り取り(収穫期は4月~11月)は、現在、大型機械6台(24時間稼働)と人力刈り取りを行っているが、人力の場合、サトウキビの枯れた下葉を焼き払うため、環境問題となっており、2018年までには、下葉焼きを廃止(機械化)すること。ただし、サトウキビ労働者の雇用問題の発生が課題。
- ・サトウキビは、一度植えると年1回の刈り取りで7年間収穫できる。元々ブラジルにはサトウキビはなく、1532年にポルトガル人がニューギニア原産を持ち込み、品種改良を重ねて現在に至っている。



②COSAN社



②COSAN社さとうきび畑



②COSAN社さとうきび畑

#### ☆バイオエタノール事業の意義

- ・キーワード…カーボンニュートラル=大気中の二酸化炭素総量の増減には影響を与えない。
- ・ブラジルの取り組み…バイオエタノールの先進国であり、1970年頃からガソリンに25%のエタノール混合を義務化している。
- ・食糧問題と競合しない…ブラジルの場合、未耕作地が3億ヘクタール(日本面積の約8倍)あり、この土地を活用していく。(アマゾンにはサトウキビは適さず、サトウキビ畑のための森林伐採はしていない。)現に、ブラジルでは食糧生産は増えている。

#### ③サンパウロ日本総領事館・福岡県人会・現地日本進出企業との交流会

19時より宿泊ホテルにて在サンパウロ日本総領事館西林総領事、ブラジル日本商工会議所田中会頭、福岡県人会南会長を始めとして在ブラジル側21名が出席され団員との意見交換を行い現地の苦労話今後の取り組み等を直に聞きブラジルの今後の発展に熱い息吹を感じることができた。



③サンパウロ 交流会



#### ④リオデジャネイロ日本人商工会代表との昼食交流会

#### ⑤ジェットロ サンパウロセンターでの「ブラジル経済事情セミナー」

#### ⑥ジェットロ ブエノスアイレス事務所での「アルゼンチン経済事情セミナー」



④リオデジャネイロ 交流会

## 南米視察団に参加して

アジアネット 田中 豊

コーヒー、サッカー、カーニバル・・・私のブラジルに対するイメージはごくごく平均的でステレオタイプなものだったが、(株)福岡貿易会が主催する南米視察団に参加して、すっかりその認識を改めさせられることになった。確かにここ数年、ブラジルはBRIC'Sの一員として注目を集めているが、中国やインドのような急速な経済成長を遂げる新興国とは異なり、社会インフラも想像以上に成熟していて層が厚く、また自然や社会との共存・共生において数歩先行く予感と可能性のある国であることを観る思いがした。

資源の有限性や異常気象の脅威にさらされている今日の世界で、資源大国の地位が急速に高まっている。ブラジルはそれを乱開発するのではなく、循環型社会を前提に取り組んでいるようだ。サンパウロ郊外にあるブラジル最大のバイオエタノール製造能力を誇る「COSAN」社。ここではサトウキビから砂糖を製造し、さらに燃料用および工業用エタノールを製造している。ブラジルでは70年代の石油ショック以来、燃料用エタノールの普及に取り組んでいたが、ここ数年の原油高騰ですべての販売向けガソリンには一律25%のエタノールが混入されており、またエタノール燃料だけでも走れるフレックス車の普及も進んでいる。再生産が可能な植物由来のサトウキビを原料として砂糖と燃料を本格的に作り出しているのである。また搾りかすや上澄み液などの副産物も発電用燃料や有機肥料として有効利用している（ちなみにアマゾンの原生林を伐採してエタノール用にサトウキビを植えているという一部報道があるが、熱帯雨林地区ではサトウキビは生育が難しく、適さないで根拠がない。現にブラジルの食糧生産は減少しておらず注意が必要である）。国立自然保護区での車両制限や極力人工物を排除する自然環境保護に対する厳しい姿勢を世界は大いに見習う必要がある。

また、ブラジルはエネルギーや製鉄、農業などの基幹産業が強く、また航空機やハイテクなど先端産業の実力も非常に高いとのことである。すなわち両端の産業に強いという構造をもっている。逆に、自動車や家電などの部品や中間材の裾野が広がっておらず、ここに日本企業との連携や補完関係の可能性が大いに見出せそうである。

サンパウロとリオデジャネイロでは地元在住の日系福岡県人会やブラジル商工会議所、在伯駐在員の皆さんと交流できたことも大変勉強になった。ブラジルでは何処へ行っても日本に対してとても好意的で親日の情が厚い。アジアでは反日色が強い地域もあるだけに私にとっては信じられないほどである。これも100年目を迎えた日系移民の皆さんの並々ならぬ努力とブラジルに対する貢献の蓄積によるものであり、心から敬意を表し、また今回ほど自分が日本人として生まれたことに誇りを持たたことはない。

さらに今回の訪問の特長は、アルゼンチンまで足を伸ばせたことである。私たちにとっては同じ南米でも、現地をみて比較をすればすぐにブラジルとは人種も社会も全く異なることを知った。経済的には2001年にデフォルト（対外債務不履行）を宣言し、対外的な資金調達に厳しい情勢にはあるが、石油、穀物、畜産品など自給はもとより輸出も順調で予想以上に安定した社会であるように思えた。また、首都ブエノスアイレスは、建物もファッションもヨーロッパを感じさせる落ち着いた街並みである。タンゴ発祥の地だけあって哀愁漂う大人の街でもある。ぜひ時間をとってもう一度訪ねたいと思うほど虜になってしまった。

訪問した各地で、総領事館やジェトロ、日系・伯系企業との交流が実現し、単独ベースではとても実現できない非常に充実した内容であった。日程企画の段階から帰国にいたるまで並田会長をはじめ(株)福岡貿易会事務局には適切なアドバイスやご支援を頂いた。心から感謝申し上げたい。

## 南米「試食」団に参加して

株ふくや 川原 武浩

出発前、人から「ブラジルやらアルゼンチンやらに何ばしに行くかね？」と聞かれるたび「アピスバに得点力のあるFWを探しに…」とか「アマゾン河の魚で明太子を作り…」と答えていたが、本当の理由は「一度行って見たかったから」に他なりません。何せ日本から見れば地球の真裏、福岡から乗り継ぎを含めれば30時間は優にかかるわけですし、そのうえ入国にはビザも必要となればなかなか足が向く国ではありません。今回のこの貴重な機会をいただいた(株)福岡貿易会さまに、心より感謝いたします。

今回の旅行では、密かに自分の中で二つのルールを決めていた。一つは、食べたことのない食材や料理は一口ずつでも全て試すこと。もう一つは出されたものは残さず食べること。しかし、ブラジルの一食目「Villa d' Aldeia」でのシュハスコのホージーオ（食べ放題）で、そのルールを決めたことをいきなり後悔することになるのだが…。

シュハスコはご存知のように主に牛肉の部位を串刺しにしたものをギャルソンがテーブルに運び、そこから好みの量だけ切り分けてもらって食べるというものである。まるでわんこそばのように、次々と違う種類の肉を持ったギャルソンが押し寄せてくる。わんこそばならお椀に蓋をするのがギブアップの表現だが、シュハスコの場合は、テーブルの上に「NAO OBRIGADO (NO THANKS)」の赤いプレートを出すと、怒涛のおすすめ攻撃は終わる仕組みだ。それ以外にピュッフエコーナーにはサラダ、チーズ、ハム、寿司、豆料理、フルーツ等々。後で知ったのだが、シュハスコだけでなんと25種類、ピュッフエコーナーには50種類以上のメニューがあったらしい。「一口ずつ」というチャレンジがいかにも無謀だったかお分かりいただけたらと思う。

同じ肉料理で印象深かったのは、アルゼンチンのアサド（炭焼バーベキュー）である。塩だけで味付けしたシンプルな味だが、前菜からサラダ、メインまでデザート以外は全て肉と内臓。さすが牛肉の年間消費量が1人当たり70kgに迫る国だ。内臓まで含めた食用部位がブラジルよりも圧倒的に多いのも、アルゼンチンの牛肉食が文化として成立している何よりの証だろう。モルシージョという、血の入ったソーセージなどは、イギリスのブラックプディングに通じるものがあり、興味深く（周囲には気持ち悪がられながら）味わった。

ブラジル・アルゼンチンとも国土に複数の異なる気候帯が存在しているため、食材のバラエティが豊富だ。加えて移民の持ち込んだ食文化もあり、ポルトガルをはじめとするヨーロッパ、アフリカ、日本などの料理が並存している。日本からは「寿司」。ただし基本的にサラダ扱いなので、具にイチゴが入っていたりと思議なものも多かった。パスタやラザニアなどイタリア料理の類も多く見かけたが、こちら残念ながらアルデンテという言葉は本国に置いてきてしまったらしい。

最もイメージと違ったのは、現地のコーヒーがものすごく甘い、ということだ。香りの良いアラビカ種は高級品として輸出され、ロブスタ種という苦味が強く香りが少ない普及品種が国内消費に回っていることもあるのか、コーヒーには飽和するほど砂糖を入れてから飲むのが普通だという。聞けば「苦いのは人生だけで充分だ」との言葉もあるとのこと。確かにコーヒー・砂糖ともに一大産地であることを考えれば当然のことかもしれない。

他にもブラジルでピンガというスピリッツをベースにした「カイピリーニャ」という、これも砂糖を飽和するまで入れる甘い甘いカクテルを飲んで撃沈したり、原型が不明なほどの巨大な川魚を「輪切り」にした焼き魚を食べたり、豆料理のフェイジョアードを試したりとここに書ききれないことばかりですが、食材に関しては皆さんの想像よりもはるかに「豊かさ」を感じることができるだろうと思います。

さて、当初設定したルールを守り通したその結果は11日間で体重が+5kgという恐ろしいものでした。体重を元通りにすべく奮闘するなかで、日本に帰ってきてから知ったのは、ブラジルではあまり食事を残すことに対する抵抗感がなく、基本的に量が多い（＝残していい）ということ。それも食料の豊かさを象徴しているのでしょうか。

## 英文契約書実務入門セミナー ※ジェトロ福岡との共催

- <日 時> 平成20年8月7日(木) 14:00~17:00  
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室  
 <テーマ> 英文契約書の基礎から読み方、作成の仕方まで — 英文国際販売代理店契約を題材に —  
 <講師> (社)日本商事仲裁協会理事 大貫 雅晴 氏

参加者のことばより

- \* 契約書について理解が深まりました。外国企業への技術支援契約やロイヤリティ設定時に留意する点なども次回扱って欲しい。
- \* 具体例をたくさん出していただき、内容もとても分かりやすく貴重な時間でした。  
 ~もっと聞きたい、もっと時間を長くして欲しいというご意見が多数寄せられました~



報告

## 国際法務セミナー ※ジェトロ福岡との共催

- <日 時> 平成20年8月8日(金) 10:00~16:00  
 <ところ> 福岡商工会議所 502会議室  
 <内 容> 第1部 国際輸出入取引におけるトラブル対策 10:00~15:00  
 講師:(社)日本商事仲裁協会理事 大貫 雅晴 氏  
 第2部 貿易保険制度について  
 講師:(独)日本貿易保険大阪支店 お客様相談室長 山本 浩二 氏

参加者のことばより

- \* 大変勉強になりました。今後貿易業務の実践で大変役に立つと思います。
- \* 海外取引の際の契約書の内容について基本的な解説のセミナーがあれば参加したいです。
- \* 紛争に至る前に知っておくべき事がよく分かりました。  
 今回は全般的なお話でしたが、個別国の法務関連のレクチャーを受けたい。

報告

## 外航貨物海上保険セミナー

- <日 時> 平成20年9月11日(木) 13:30~16:30  
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室  
 <講師> 三井住友海上火災保険株式会社 福岡法人部営業第三課  
 課長代理 木村 紀史 氏  
 <内 容> 外航貨物海上保険で何がカバー出来るか?  
 保険申込の実務と注意点...最近の事故事例から

参加者のことばより

- \* レジュメと資料が詳しくまた具体的な事例も説明して下さり、とても分かりやすかった。
- \* Debit Noteの役割も詳しく知ることが出来て良かったです。
- \* 現実に業務上で実際行う場合が多い項目があり、大変有意義な講義でした。
- \* 今まで乙仲さんに任せっきりでしたが、一度今までの海上保険を見直してみる必要があると思いました。

報告

## 輸出入金融セミナー

- <日 時> 平成20年10月9日・16日(木) 14:00~17:00  
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室  
 <講師> (社)福岡貿易会 貿易アドバイザー 木村 寧海 氏  
 <内 容> 貿易取引の仕組み・輸出入代金の決済方法・輸入信用状の発行  
 外国為替市場の仕組み・為替リスクの回避等

参加者のことばより

- \* 10年以上貿易をやっていますが改めて勉強になりました。
- \* 資料・レジュメが充実していて、また経験を交えて説明されたので良く理解出来た。
- \* 入金・送金・買取など銀行を日頃から使っている、実際の手続きなど分からないことが多かったのですが、今日の講義で(銀行の目線からの講義だったので)よく分かりました。
- \* 仕事で使う書類・語句の説明があり意味が分かって良かったです。
- \* 次回は実務通りに事が運ばなかったときのケースを入れてもらえると助かります。



報告

## 日本食品上海市場セミナー

報告

- <日 時> 平成20年10月21日(火) 13:30~16:30  
 <と ころ> ホテルオークラ福岡3F オークルーム  
 <主 催> アジアビジネス支援事業推進協議会  
 ((社)福岡貿易会、ジェトロ福岡、福岡商工会議所、福岡市)九州経済国際化推進機構  
 <共 催> 株式会社福岡銀行  
 <内 容> 第1部:上海における日本食品市場の実態  
 講師:ジェトロ上海センター 海外投資アドバイザー 能多 伸一 氏  
 第2部:食品輸出の楽しさと苦勞  
 講師:株式会社フンドーダイ・インターナショナル 専務取締役 太田 百美 氏  
 ※100名を越すご参加を頂き、日本食品の中国輸出への関心の高さが窺えました。

参加者のことばより

- \*データが多くまた実際の話が多くて、リスクも含め分かりやすかった。
- \*様々な資料関係(細かい商品の店頭価格など)が、現地に行かずとも手に入り有意義だった。
- \*太田氏が話された中国貿易のリスク・人脈等の難しさに大変共感致し、同じ考えを持っておられる方の話を聞いて役に立ちました。
- \*上海における輸入通関事情がよく分かった。
- \*輸出を行うに当たって、困難な問題があることを再認識させて頂いた。
- \*上海の市場性や政治的背景によるビジネスリスクが予想以上に大きいことが分かった。



## 食品輸入セミナー

報告

- <日 時> 平成20年10月23日(木) 14:00~17:00  
 <と ころ> 福岡商工会議所2F 第2研修室  
 <内 容> 第1部:「我が国における食品添加物の違反事例紹介と事前の対策について」  
 講師:厚生労働省福岡検疫所 輸入食品相談指導室長 平井 秀和 氏  
 第2部:「輸入加工食品の自主管理に関する指針(ガイドライン)について」  
 講師:厚生労働省福岡検疫所 食品衛生専門官 谷 拓 氏

参加者のことばより

- \*食品添加物の違反事例の原因・背景・対策がとても役立ちます。最近の違反事例がたくさんあり、詳細に疑問点をまとめてあり、実務に携わるものには助かりました。また輸入加工食品の自主管理の観点より考え方を学ぶことが出来、資料を用いて社内で検討したいです。
- \*通関業者ですが、日々の業務の中で役立つ内容であり資料等も参考になります。輸入者の方々に是非認識して頂きたい内容で顧客への説明にも使用したいです。
- \*事例を用いての説明で理解しやすく対策も交えてあり参考になった。画像を目で見ることが出来、記憶に残りやすい内容で良かったです。



## 夜間語学講座

### 貿易英語講座～中級編～

報告

- <日 時> 平成20年7月15日～8月5日 毎週火曜日 19:00~20:30 全4回  
 <と ころ> 西日本ビル8F 808会議室  
 <講 師> 末次通訳事務所代表 末次 賢治 氏  
 <対 象> 貿易英語実務経験1年あるいはTOEIC500以上の英語力をお持ちの方  
 <内 容> 物事の効率的説明の実践練習(商品の説明)  
 商取引に有用な英語表現の紹介と練習(各種前置詞の使い方)  
 「支払い要請」「値上げ案内」等、言いにくいこと&案内文の作成方法

### ビジネス中国語会話 I

報告

- <日 時> 平成20年8月18日～9月29日 毎週月曜日 19:15~20:45 全6回  
 <と ころ> 西日本ビル8F 808会議室  
 <講 師> 実践中国語講座代表 奥井 恵子 氏  
 <対 象> 中国語学習経験1年以上、または今春開催の基礎編修了者(ピンイン習得済み)  
 <内 容> アポイントの取り方・電話のかけ方・日程の確認・調整  
 交渉・提案・接待の場でよく使うフレーズ

会員企業紹介

社団法人 福岡貿易会  
2008年11月発行

◆会員名	株式会社 アジュール・インターナショナル		
◆代表者役職氏名	代表取締役 吉岡 律子		
◆所在地	◆東京オフィス：102-0082 東京都千代田区一番町 3-3 NISSEIビル 8階 ◆九州オフィス：862-0924 熊本市常山4-40-1		
◆TEL	東京 03-3262-7787 九州 096-387-1314	◆FAX	東京 03-5485-8977 九州 096-387-1304
◆URL	www.azur-international.com		
◆MAIL	info@azur-international.com		
◆主要業務	①プリザーブドフラワーのデザイン・製作・販売・教室 ②輸入アクセサリ・小物の販売 ③カラーセミナー・マナーセミナー・ビジネスセミナー等の企画・運営 ④イベント等の司会・運営 ⑤TV番組等へのキャスティング ⑥企業 V.P 等の映像製作		
◆当社の特色と 会又は会員企業への 希望について	当社は、ビジネスマナーセミナー、カラーセミナー、プリザーブドフラワーなど、キャリアを持った講師が所属する、スタッフ全員女性の会社です。九州ではプリザーブドフラワーの特性を生かしたギフト、店舗・病院・企業様への装花提供をはじめ顧客さまへの記念品やノベルティ、また、福利厚生としての研修、熊本サロンでの教室、NHK文化講座での教室、作品の販売などを主体として業務を行っております。出張教室もお受けしております。ウェディング部門では、プリザーブドフラワーを使った世界に一つのブーケ作りから、カラーコーディネーターによる衣装選びのお手伝い、お式での身のこなしレッスン、司会進行までトータルにコーディネートいたします。マナーセミナーでは、コーチングの手法を取り入れ、新入社員、女性向けにロールプレイングを中心とした実践的な訓練を行います。カラーセミナーでは、本人の長所を活かし、魅力的に見せてくれる色を選び出し、第一印象アップのお手伝いをいたします。個人から学校、企業様までオーダーメイドの各種セミナーを行っておりますのでどうぞご相談ください。詳しくは新しいホームページが完成しましたので、是非こちらもお覧下さい。		

編集後記

／事務局長 野 忠雄

発行・編集/ 社団法人 福岡貿易会  
デザイン・印刷/ (株)西日本高速印刷

いよいよ、50周年記念事業のメインであります「記念講演会・記念式典・祝賀会」を12月10日に開催します。是非とも会員皆様のご協力を頂きたいと思っております。よろしくお祈りいたします。今回、50周年記念事業の一つとして福貿会では初めて(たぶん最後)南米に経済視察団を派遣しましたがそのご報告をさせて頂きました。第2弾として2月中旬には、カンボジアを中心とした経済視察団を予定しています。12月中にはご案内できるとお思いますので、ご検討方よろしくお祈りいたします。

福岡貿易会事務所  
〒812-8505  
福岡市博多区博多駅前2丁目9番28号  
福岡商工会議所ビル7F  
TEL:(092)452-0707 FAX:(092)452-0700  
E-MAIL:info@fukuoka-fta.or.jp  
ホームページ http://www.fukuoka-fta.or.jp/



この印刷物は自然環境保護のために再生紙を使用しています。また、大豆油インキを使用しております。